

グローバルマインドを育むESD活動

北海道教育大学附属札幌中学校 佐々木 貴子

担当者名 寺田 実

1 趣旨・本校のESDの特徴

本校は、小中一貫でグローバルマインドの育成を目指しており、学習指導要領に示されている持続発展教育を実施しているが、各教科等の学びを統合したり、有機的に関連付けたりすることを意図的に行っている。そうすることで生徒自身が持続可能な社会の構築に向けての当事者意識をもつものとする。

それには、教科等で培った持続発展教育に関する知識・理解等を、総合的な活動の時間や特別活動の時間を利用して行動化することが大切である。教育活動全体で持続発展教育に向かう共通理解を、生徒と教師、保護者、地域・社会に図ることになるからである。必要な教育資源（様々なネットワーク、実践資料等）を獲得し、その意義を共通理解しながら生徒とともに活動に取り組んでいる一端を以下に報告する。

2 活動・全体計画

(1) 国際理解、伝統文化

・韓国の文化やアイヌ文化について。留学生、JICA研修員との交流（2年生 総合的な学習の時間）

(2) 平和・人権

- ・長崎大学教育学部附属中学校との交流（3年間の継続的な交流）
- ・“長崎語り”のレポートによる、日本の現代史の学習の深化（平和学習）
- ・生徒会役員会の世界寺子屋運動への継続的な参加

(3) 環境

- ・地域の自然を大切にするための環境活動（クリーンプロジェクト）：1年生
- ・生徒会厚生委員会のペットボトルキャップ、リングプル回収。リサイクル委員会の牛乳パック回収。

(4) 防災

・地域を探索し、地域の自然や人との関わり、防災の視点を取り入れた調査活動を実施：1年生

(5) 食育

・栄養教諭による「望ましい食習慣とは」という学習課題での学年授業：2年生

※すべてに関わる内容として第3学年総合的な学習の時間「ブルーム」

3 実践事例

(1) 総合的な学習の時間での取り組み

①韓国梨花女子大付属中学校との交流（e-mailでのやりとり、人的交流）を通して、異文化理解、多文化共生を目指した授業を展開：2・3年生

- ・平成27年1月～ 本校2年生が韓国梨花女子大付属中学校とe-mailで交流
 - ・平成28年6月 本校訪韓団36名が韓国梨花女子大付属中学校訪問
- ※韓国から本校への訪問は、相手校の諸事情により中止
- ・平成29年1月 韓国梨花中の生徒1名が本校を訪問。一日本校生徒とともに活動。



【韓国訪問時の様子】

②自分たちが生活している社会に目を向け、そこに内在する課題を見だし、自分にできることは何かを考え実践する活動を展開：3年生

- ・大学図書館やインターネットを通じて調査活動を行う
- ・調査活動をふまえ、自らの疑問を解決するための2回、フィールドワークに出かける
- ・自分の調査結果と考察を、下級生、保護者、フィールドワークでお世話に立った方に発表する（ブルーム討論会）
- ・発表会でディスカッションした内容を含め、最後の卒業論文をまとめる

③多様な他者・文化の理解や自他の文化の違いやよさに対する気付きなどをねらいとし、探究的な学びを行っており、海外訪問団の受け入れを実施：2年生

平成28年10月 JICA 初等理科教授法グループを受け入れ、交流会を実施

「異文化をもつ人たちとよりよい関係を築くにはどうしたらよいだろうか」といった課題を設定し、それぞれの班で様々な視点から考えを出し合い、協力しながら発表準備を行う。

日本の文化、附属の学びを英語で紹介した。



【JICA訪問団との交流会で柔道について伝える様子】

(2) 特別活動での取り組み

①学校宿泊で地域（あいの里地区）を探索し、地域の自然や人との関わりを大切にされた調査活動を実施。その中で地域の自然を大切にするための意識啓発や防災に関する活動を行った。：1年生

②修学旅行で長崎を訪問し、被爆体験講話や長崎大学附属中学校の生徒と交流を図り、平和学習の推進を図る→帰着後、平和学習を通して学んだことについて交流：3年生

③生徒会活動の取り組み

生徒会委員会がユネスコスクールの意識をもち、自分たちの委員会の活動に、ユネスコスクールとしての活動を取り入れ、実践している。今年度は、ユネスコスクールとしての活動を啓発する漫画による便り「ユネスクニュース」を発行した。

4 成果と課題

各教科の学習と様々な活動が有機的に関連づけられてきたことから、生徒の当事者意識が醸成されつつある。特に、生徒会委員会で自主的な活動が無理なく自然な形で定着してきたことに意識の高まりを感じる。ただし、ユネスコスクールに加盟している他学校や附属小学校との連携が今後の課題である。